

ノ一ト

学生相談室報告（9）

纈 纈 康 兵

Report from the Counseling Room (No.9)

Kohei KOKETSU

Don't today's students take their lives seriously? Why do they love only comics?

今回も難感的に学生相談室報告を記してみたい。今年で学生相談室を担当するようになって、はや9年の歳月が流れた。まさに歲月人を待たずの感が強い。

最近、学生との面談で特に気になった事があったので、それについて簡単に記してみたい。ある学生が私の所へ相談に来た。まあ、青年期特有の悩みを私に訴えるわけであるが、色々、彼と話をしている、どうしても私にはピンとこない何かがあるような気がしてならなかった。それは、私の言っている事が単に言葉として耳の中を通過するという感じを受けたのである。学生本人には失礼だと思ったが、最終的に私は、彼に「あなたの心は何処にあるのか？」と問いかけた。問いかけられた学生はしばらく考えるような様子をしてしたが、真面目な顔をして、「心？ それは一体何ですか？」と反対に問い返して来た。私はその時、一瞬、啞然としたが、彼が本当に、常日頃、よく考えた結果、解らないから、問い返したとは思えなかった。それで、私は彼に、あなたは高校、大学時代に学校の教科書以外にどんな書物を読んだのかとたずねた。彼は漫画以外は何も読んだ事がないと答えた。これを聞いて私はなんともやりきれない気持ちにさせられた。本を読まない事は、直接的にしる、間接的にしる結局、考えない事に密接に結びつくからである。又、その逆も然りであろう。我々が、もし読書という事を全くしないならば、恐らくあまりよく考える事もしないだろうし、又、よく考えなければ結局、読書から遠ざかると思われる。

私はその学生にどうやってこちらの考えている事を伝えようかと様々な方法を試みた。が、結果は見事に失敗した。それから、しばらくして、彼は再度私の部屋を訪れた。そして、私に「すべての悩みはなくなりました」と言った。私はよく自分で解決出来たものだと感じた。

それで、どのような方法で自己の悩みを解決したのか聞いた所、「易者に占ってもらった所、運勢がよいので安心した」と答え、「僕はもうなんの悩みもありません」と言った。私はこれらの話を聞きながら、物事をこれ程安易に考え、処理していくのが、現代の学生かと思った。もちろん、これが当世のすべての学生を代表しているとは思わないが、それにしても、彼のように物事を処理していくならば、結局、自分自身でよく考えて物事を解決している事にはならないであろうと思った。

古来より人間が、文化、文明をつくりあげる事が出来たのは、地球上の他の如何なる存在よりも考える事に於いて、より秀でていたからである。今の学生は物事をよく考えないし、又、本を読まないということをよく耳にする。そして、彼等が漫画のたぐいしか読まないとするならば、大袈裟に言うわけではないが、人間のつくりあげてきた、文化・文明を背負う事が仮に出来たとしても、それをさらに創造的に発展させる事は不可能ではないかと思う。何故なら、古いと言われるかもしれないが、漫画がいかにすぐれたものであっても、現実の我々の歴史、日常生活とは無関係だからである。私はここで漫画論なるものを論じるつもりはないが、漫画の世界は単なるその場しのぎの空想の世界でしかあり得ないと思う。私は学生達の好きな漫画がすべて悪いと言っているのではない。ただ、自分自身で物事を考え、判断していく場合、漫画では不十分であると言いたいのである。漫画的な発想からは、やはり、漫画的な生き方しか出てこないように思う。例の学生にしても、結局、自分で考える事を放棄したのであり、同時に自分で考える事が出来ない事をまさに適確に表明しているのではないかと思われる。

ある大学の先生が、今の学生は「読まない」、「書かない」、「考えない」の「三無主義」に陥っていると言うよ

うな事を何かの記事に書かれていた事を思い出すが、人間にとって「読み」、「書き」、「考える」といった事柄は理屈以前の問題であり、人間が人間らしく生きようとするならば、当然、「読む」事は必要になってくると思われる。もし、読書が我々の人生を豊かにしてくれるのであれば、物事をよく考える意味に於いても、多くの大学生達が読書の習慣をつけて欲しいと願うのは私だけであらうか？

最後に中国の諺を記して、このノートを終りとしたい。

三日不読書 其言也無味

付記：過去1年間に学生相談室で取扱った件数を相談内容別に集計した下表をご参照いただきたい。

相談内容別取扱件数

(昭和60年1月17日～昭和61年1月16日)

相 談 内 容	件数	%
1. 学業全般 (留年を含む)	110	46%
2. 学生生活	75	31%
3. 対人関係	25	10%
4. 精神衛生	2	1%
5. 進路問題 (専攻・就職など)	18	8%
6. 健康問題	10	4%
計	240	100%

(受理 昭和61年1月25日)